

## マナーのツボ

### 応接室で下座を案内された

昨年夏のこと。ある企業を訪問し、応接室に通されました。すると案内役の女性が「こちらにどうぞ」と明らかに下座を指すのです。指定された場所に座るのがマナーです。不思議に思いながらもお礼を述べて座りました。

すぐに担当者が入ってきたので立ち上がってあいさつすると、「あれ、こちらへどうぞ」と部屋の奥の席を促してくださいます。その部屋の上座となる席です。そこへ先の案内役の女性がお茶を運んでこられ、「この時間帯は西日が強いので、こちら側を案内いたしました。言葉が足りず失礼いたしました」と説明されたのです。



確かに西日が当たっています。まぶしくて紫外線が

### 居心地を重視 臨機応変に

気になる席は、できれば避けたいです。女性の気遣いがありがたく感じました。

すべての空間には席次があります。しかしそれは決して画一的なものでなく、状況や相手に応じて個別に考えるべきもの。ましてや訪問した側が勝手に決めることではありません。

本来なら下座と考えられる入り口に近い席であっても、眺めがいいなら「外の景色をご覧いただけます」とおすすめるのはすてきなおもてなしです。たとえ上座であっても、冷暖房の風が直接当たる席は避けるべきでしょう。

扉から遠い席が上座、椅子と長いソファがあればソファが上座など、基本的な決め事があります。それでも訪問者は「郷に入っては郷に従え」の精神、もてなす側はとっさの状況判断が必要なのです。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)